

事後評価報告書
(日本-EU 研究交流)

1. 研究課題名： ストレス条件下における穀物根の養分獲得能の強化

2. 研究代表者名：

日本側： 国際農林水産研究センター生産環境領域 主任研究員 ビスワ マティアス

相手側： CIRAD、Biological Systems Department Unit head Guiderdoni Emmanuel

3. 総合評価： C

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

5つの研究機関との共同研究によって、新しい解析法、評価法を取り入れることが出来、研究課題の一つである「どのようにしてイネが効率的に養分を吸収するか」に向けたアプローチが確立できたことは評価に値するが、プロジェクトの最終フェーズに達して折らず、成果がやや不足である。多くのメンバーが関与した研究だけに、いくつかに焦点を絞ったほうが良かったと思われる、一応2編の論文を出版しているが、日本人参加研究者による国内学会発表は無く、日本チームの研究成果が見えない。本事業報告書からは、研究代表者以外の日本側参加研究者の役割が明確に読み取れず、全体としての融合が不足していた点は残念である。本研究の成果を挙げるためには、今後の共同研究の継続が必要と思われる。

(2) 交流活動の評価について

ボン大学からのポスドクの日本長期滞在など、海外の若手研究者の国際活動に貢献した研究代表者は渡航も多く、多くのワークショップ・セミナーを開催し、相手国参加者と活発な討論の場を設けたことは評価するが、日本からの全ての訪問が代表者のみであったことは国際交流という観点からは好ましくない。日本側参加研究者5名が相手国で研究討論や技術交流を行うことに力を注ぐべきであった。研究代表者が、日本側の参加研究者を統括し、本課題を円滑に遂行できたかは疑問が残る。

(3) その他

本事業は、若手の研究者に国際活動経験を多く持たせることを大きな課題としており、代表以外の日本側研究者が全く渡航もせずに、交流の場も無かったことは残念なことである。本課題経費が主として代表者の海外出張旅費に用いられたことは好ましいことではない。